

リハビリを通して、
その人らしさを取り戻してもらおう。



新村信人さん(1998年生まれ)
浜松湖南高校 出身
聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部卒業

医療法人社団 盛翔会 浜松北病院
浜松市東区大瀬町1568
<https://www.hamamatsu-kb.or.jp/>

なるためには
●必要資格 / 作業療法士
●主な進路 / 高校を卒業→作業療法士養成課程のある大学へ
進学→国家試験に合格して、作業療法士の資格を取得→病院に
就職

— 学生時代

「リハビリの道に進もうと思ったのは、進路を決めるギリギリ高校3年生のときです。ボランティアに参加したり、家事を手伝ったりするなかで、誰かを支える医療の仕事に興味がわきました。その中から選んだのは、患者さんと接する時間が長いと言われているリハビリ職人とのコミュニケーションが得意ではなかったたので、あえて苦手なことに挑戦して自身を成長させたいと思っただけです。高校卒業後、聖隷クリストファー大学に進学しました」

大学時代について教えてください。

「PBL(問題基盤型学習)やグループディスカッションを用いた授業が多く、自分の意見を述べ、主体的に学ぶ姿勢が育まれたと思います。足りない知識は、自主的に調べたり先輩や先生に相談したりする習慣も身につきました。その姿勢は今も役立っています。1、2年次は、解剖学や病理学、身体機能や作業療法に必要な評価について学びました。3、4年次の実習では、学んできた内容を実践し、足りない知識を深めていきます。実際に患者さんと接してみると、信頼関係を築くことが難しいということを実感しました。話し方や接し方、一つひとつの仕草など、現場でしか学べないことも多かったです」

— 仕事について

「作業療法士は、患者さんの趣味、掃除や洗濯などの家事、着替えや歯磨きなど、様々な生活動作のリハビリ



を行うことで、その人らしさを取り戻してもらう仕事です。病気やけがに負けず、理想の生活が退院後に送れるようサポートをしています。リハビリの流れとしては、まずはお互いを知ることから。病前の生活、興味、できるようになりたいことなどを聞いて目標を設定します。その目標に対し、患者さんの意見を取り入れつつプログラムを立て、患者さんに寄り添ってリハビリをしていきます」

心がけていることは？

「患者さんの問題はかりに着目してしまおうと、リハビリに対する意欲が落ちてしまいます。ご本人の強みや好きなことを生かしたプログラム提案を心がけています。そのためにも、患者さんとの日々のコミュニケーションを大切にしています」

— やりがい

「患者さんとリハビリを続けるなかで、設定した目標を達成できた瞬間や、その喜びを分かち合えた瞬間にやりがいを感じます。入院中のつらい経験や、患者さんがどのくらい頑張ってきたのかを私は見ているので、努力が報われた瞬間は自分のこのようにうれしいです」

— メッセージ

「国家試験に合格し、作業療法士の資格を取得することが第一歩です。まずは養成課程のある大学へ行くところから。私は聖隷クリストファー大学のオープンキャンパスに参加し、相談しやすい環境や先生・先輩たちのフレンドリーな雰囲気惹かれて進学しました。ぜひみなさんもオープンキャンパスに参加してみてください。高校生のみなさんには、自分の描いた理想を信じて突き進んでほしいです。悩むことも多いと思いますが、自分の気持ちに嘘をつかずに頑張ってください」

ありがとうございます。



自分探

18歳 自身を成長させたいという思いから、リハビリの道を目指す。
22歳 座学や実習を通して、作業療法士としての基礎を学ぶ。卒業後、浜松北病院に就職。
24歳 患者さんが理想とする生活を退院後に送れるよう、リハビリを行う。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！
<http://amb100search.com>



経験を積むことで、
自主的に行動できるようになる。



青木翔吾さん(1992年生まれ)

掛川工業高校 出身
中部大学 工学部卒業

愛知県警察本部

名古屋市中区三の丸 2-1-1
<https://www.pref.aichi.jp/police/>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校を卒業→大学へ進学→警察官採用試験に合格→警察学校に入校→交番勤務を経験→地域課に配属

—学生時代

「中学生のころは車の設計に興味があって、掛川工業高校に進学しました。高校卒業後は中部大学に進学。大学ではボランティアサークルに入り、地域の清掃や環境対策の活動に取り組みました。活動を通して継続することの大切さを学びました。時には地域の方と共同で行うプロジェクトもあり、幅広い年齢層の方と接することができた経験は、今の仕事にも生きていくと感じます」

—警察官を目指したきっかけは？

「大学3年のときに交通事故、バイクの盗難被害に遭いました。そのとき警察官の方が真摯に対応してくださり、警察という仕事に興味を持ちました。身内の警察官にも話を聞き、警察官になりたいという気持ちにさらに高まりました」

—仕事について

「警察官になると、まずは警察学校に入校します。警察学校では、法律などの警察官として必要な知識や、柔道・剣道、逮捕術などを学んでいきます。警察学校を卒業後、最初は交番に勤務し、道案内をしたり落し物の受理をしたり、様々な事案の対応を行いました。そのほか「巡回連絡」という地域住民の自宅を訪ねる活動も重要な仕事のひとつです。中には「困りごとがあっても、なかなか110番通報できなかった」という声もありました。直接、話することで本音を聞くことができるので、困りごと

—メッセージ

「警察官として働く上で体力が必要になる場面も多いですが、職務に必要な体力は警察学校で身に付けることができます。また、警察の仕事は、年齢性別問わずいろいろな方と接する機会があります。学生時代は、同世代の友人だけでなく様々な人と話して、コミュニケーション力を高めていきました。警察官の仕事に興味があったら、ぜひ近くの警察署や交番に来てください。警察の仕事の魅力や、やりがいについてお話させていただけます」

ありがとうございます。



の解決につながることも多かったです」

—最初に苦労したことは？

「職務質問をする際、最初のころはどのように声をかけていいのか分からず、何をすることも指示待ちになることが多かったです。経験を積むことで、自らできるようにになりました。どんな仕事でも、前向きな姿勢で経験を積むことにより自主的に行動できるようになると思いますよ」

—仕事内容を簡単に教えてください。

「普段はパトカーで巡回パトロールをし、110番通報を受理したときに誰よりも早く現場に駆けつけ、事件・事故の対応をします。交番勤務時よりも活動の範囲が広がり、様々な事案に対応しながら、住民の方が安心安全に生活できるよう、日々の業務に取り組んでいます」

—やりがい

「地域課の仕事は、巡回連絡など住民の方と関わる機会が多くあります。地域住民の方の助けになれることが一番のやりがいです。対応をしたあとに、「ありがとうございます」と言葉をかけてもらえる嬉しですね」



先輩

18歳 工業高校に進学。テニス部に所属して体力づくりに励む。

22歳 警察学校に入校。警察官として必要な知識を習得し、柔道や剣道、逮捕術なども学ぶ。

30歳 地域課に所属。地域住民が安心安全に生活できるよう、日々の仕事に取り組む。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



お客さんにとって心に響くことが
ひとつでも増えたらうれしい。



桐田和昭さん(1987年生まれ)
浜北西高校 出身

DAN
浜松市中区連尺町313-3
https://www.instagram.com/dan_indian_curry/

- なるためには
- 必要資格 / 特になし
 - 主な進路 / 高校卒業→料理の勉強を始め、イベント出店などで経験を積む→自身のインド料理店をオープン

—学生時代

「サッカー部に所属し、部活に励んだ高校生活でした。部活を引退してからは、洋服にどっぷりハマった生活を『CHOKCHOK』など、ストリートスナップ雑誌の影響も大きいですね。卒業後の進路は、アパレル関係か美容師になるかで迷いましたが、最終的にはアパレル販売員の道を選びました」

—仕事について

「洋服を販売しながら、系列カフェのホール業務も任せられ、スタッフの賄いを作るようになったのが飲食の道に進む原点です。賄いを『おいしい!』と言って食べてくれるのがうれしくて、いつかは自分のお店をもちたいと思うようになりました。現在は夫婦でビル一棟を借りて、1階がインド料理店『DAN』、2階がフリースペース、3階が妻の美容院になっています」

—下積みについて教えてください。

「まず、南インド料理の本を借りてきてカレーづくりを始めました。東京にも通ってインド料理を食べ歩き、試作の日々。カレーに正解があるわけでもないのに、メニューが定まるまでは苦劳しましたね。最初のころは、イベントやショップの店先で出店させてもらいました。すぐに完売する日もあり、少しずつ手応えをつかんでいった感じです」

—カレーのこだわりについて。

「意識しているのは、素材をいかしてインド現地の味に近づけた料理を作ることです。カレーとライスで

—やりがい

「自分の表現をできる場所があるのはうれしいことです。あとは、カレーを作っていたら、いろんな人が自然と集まってきて、応援をしてくれるんです。それもうれしいですし、そこに自分の存在価値を感じています」



—メッセージ

「やりたいことをとにかくやる。突き進むことが大切です。途中で挫折することもありますが、挫けずにやり続けてください。あとは、好きなことには時間とお金をかけること。僕も洋服には惜しまずお金を使っていました笑。そのなかで自分を表現できるものを見つけてください。僕もただカレーがおいしいだけの店にはしたくないので、人としての魅力を感じられる場所にしていきたいです。そして、何歳になっても、おいしいカレーを作っていたいですね」

ありがとうございます。



自分史

- 18歳 部活引退後は洋服に熱狂した高校生活を送る。卒業後、アパレル販売員に。
- 31歳 DAN CURRYをスタート。イベント出店などで経験を積む。
- 35歳 実店舗をオープン。カレーを提供するだけでなく、自分のカッコいいと思うカルチャーも発信中!

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ!
<http://amb100search.com>



自分が積み上げてきた経験が
成果につながっていることを実感。



倉田小暖さん(1998年生まれ)
浜松工業高校 出身

ヤマハファインテック株式会社

浜松市南区青屋町283
https://www.yamahafinotech.co.jp/

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→自動車内装部品を製造する企業に就職→様々な工程を経験→外観検査工程を担当

——学生時代

「高校時代は、部活に熱中したこと
が思い出に残っています。吹奏楽部
に所属し、サクソスを担当して毎日
が練習の日々でした。どうすれば演
奏技術が向上するかを考えて練習
を繰り返すなかで、自主的に行動す
る力が身についたと思います。高校
卒業後は、自動車用内装部品の製造
をおこなうヤマハファインテック
に就職しました」

——仕事について

「製品がどのような工程で出来上
がっていくのかを学ぶため、金型を
セットして木材を加工する成形工
程、塗装工程など、様々な工程を1
週間ずつ経験しました。研修後、最
初に任されたのは製品に色を塗る
塗装工程です。私の仕事は直接お客
様と関わることはありませんが、お
客様を想像しながら1個1個てい
ねいに作業する意識が大切だと教
わりました」

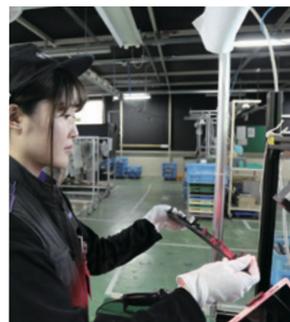
——仕事内容を簡単に教えてください。

「現在は、出来上がった製品を目視
で確認して検査基準と照らし合わ
せ、OKかNGかを判断する最終検
査を任されています。出来上がった
製品をお客様に届けるにあたり、
「高品質のモノづくりができてい
る」という確認をすることが私の仕
事です。私が担当している製品は50
種類以上。製品ごとに色や柄、検査
基準が微妙に違います。年々、新し
い製品が開発されているので、常に
勉強して知識をアップデートして
いく必要があります」

——メッセージ

「私は化学が専門でしたが、そのほ
かに品質管理や5Sなども学びま
した。これらは製造現場で働くうえ
で役立っていますが、この仕事には
特に必須となる知識や資格がある
わけではありません。強い思いがあ
れば誰でも頑張れると思います。自
分で考えて動き出す行動力が大切。
高校生のみなさんは、いろんなこと
に挑戦してみてください。どの経験
が自分の未来につながるかはわか
りませんが、自分に合うか合わない
かも一度経験してみないとわかり
ませんよ！」

ありがとうございます。



——どのような検査をするのですか？

「製品にライトを当てているいろな
角度から傷や汚れのチェックをし
たり、手袋をして製品を触り、表面
のざらざら感などの異変をチェッ
クしたりしています。最初は「本当
に大丈夫かな？」というOKライン
に対する不安がありました。その都
度、先輩に相談しながら経験を積
み、今では自信をもって判断ができ
るようになりました」

——やりがい

「最初はひとつの製品を検査するの
に1分ほどかかっていましたが、
今は15秒くらいで見ることができ
ます。コツを掴んで速度と精度を上
げることができました。自分が積み
上げてきた経験が成果につながっ
ていることを実感するとうれしい
です。自身の成長を感じますし、や
りがいいのもつながっています。あ
とは、個人的に参加しているチアリー
ダーの活動も楽しいです。ヤマハ野
球部の試合前は、週3日ほどチーム
練習をしています。体力向上やリフ
レッシュにもなりますし、みんな
協力して何かに取り組むのはいつ
になっても楽しいです」



自分探

- 18歳 吹奏楽部の活動に熱中。高校卒業後、ヤマハファインテックに就職。
- 19歳 塗装工程などを経験し、現在の外観検査工程に配属。
- 24歳 お客様に届く前の最後の工程を担当。外観検査を通して高品質のモノづくりに貢献する。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



自動車と同じくらい、
一緒に働く仲間とも向き合うことが大切。



中村豪さん(1987年生まれ)

小笠高校 出身

愛知工科大学 工学部機械システム工学科卒業

静岡トヨタ自動車株式会社

静岡市駿河区国吉田2-3-1

<https://www.shizuokatoyota.co.jp/>

なるためには

- 必要資格 / 自動車整備士
- 主な進路 / 高校卒業→自動車整備士課程のある短大に
進学→2級自動車整備士資格取得→1級自動車整備士課程の
ある大学に3年次編入→自動車販売店に就職

—学生時代

「高校時代は、サッカー部に所属していました。特別に強かったわけはないのですが、毎日仲間と練習に励み、目標であった県大会に出場できたことはいい思い出になっています。部活動から学んだ、人間関係の築き方や先輩から学び後輩をサポートする姿勢は、社会人になった今でもいかされていると感じます。サッカーは高校までと決めていたのですが、昔から自動車が好きだったこともあり、自動車関係の仕事をめざして愛知工科大学自動車短期大学に進学しました」

大学時代について教えてください。

「進学先を選んだ理由は、短大で国家資格である2級自動車整備士を取得した後、愛知工科大学に編入することで1級自動車整備士の資格を取得することもできるからです。自動車の仕組みやシステム、点検・整備技術などの基礎に加えて、電気・電子回路の構造や故障箇所の診断についても学びました。自動車メーカーや販売店の方から直接、最新技術を学ぶ機会もあり、実践的な学びを深めることができたと思います」

—仕事について

「大学卒業後は静岡トヨタ自動車に就職し、現在はネットトヨタ浜松・吉田店で勤務しています。主に自動車の故障や破損などのトラブルを抱えているお客様の話を聞いて、原因を突き止めて修理や部品交換をすることが私の仕事です。納車する



自動車の整備、車検などの点検やオプションの取り付けなどもおこなっています」

「チーフエンジニアとして、一緒に働く仲間の考え方や個性などを見極め、みんなが働きやすい環境づくりをすることも大切な仕事のひとつです。常に自動車整備の仕事はチームで動いています。困っている仲間を助け、改善を繰り返しながら、お客様の満足度を高めていくことが重要です。そういう点でいえば、自動車と同じくらい人と向き合うことが大切な仕事だと思っています」

—やりがい

「お客様に『ありがとう』と言ってもらえたときにやりがいを感じます。来店されたお客様は、少し不安な表情をしている方が多いです。故障の原因や修理内容を、自動車で詳しくないお客様にもわかりやすく伝えることが大切。お客様が納得して安心した表情に変わったときにもやりがいを感じます。お客様と心が通じ合えたと感じる瞬間がうれしいですね」

—メッセージ

「学生のみなさんは、今自分のまわりにいる人々を大切にしてください。社会人になると、お互い忙しくなって友人と会う機会も減ってきます。親や先生、友人への感謝の気持ちを忘れずに日々を過ごしてほしいですね。また、失敗を恐れず、学生時代にしかできないことにもたくさんチャレンジしてほしいです。成功も失敗も経験。様々な経験は、自分自身を成長させてくれますよ。あとは、難しいことは考えず、シンプルに楽しい学生生活を送ってください！」

ありがとうございます。



- 17歳 サッカー部に所属し、目標だった県大会に出場。
- 21歳 愛知工科大学自動車短期大学から、愛知工科大学の1級自動車整備士養成課程に編入。
- 35歳 チーフエンジニアとして、職場のエンジニアチームをまとめる。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



先生には聞きづらい些細なことや、
栄養・食事について気軽に相談できる存在。



渥美瑛子さん(1995年生まれ)

浜名高校 出身
愛知学院大学 健康科学部健康栄養学科卒業

株式会社杏林堂薬局

浜松市中区板屋町111-2 浜松アクタワー 13F
https://www.kyorindo.co.jp/

なるためには

- 必要資格 / 管理栄養士
- 主な進路 / 高校卒業→管理栄養士養成課程のある大学に進学→国家試験に合格し、管理栄養士の資格を取得→ドラッグストアに就職

—学生時代

「バスケットボール部に所属し、部活漬けの高校生活でした。中学まではみんな楽しくというスタンスでしたが、高校では目標を立てて必死に取り組みました。初めて真剣に努力をしたのも高校の部活。結果自分たちのなかで『やり切った!』という成果を出すことができました。進路を決めるときは、『食』に興味があったこともあり、管理栄養士資格を取得するために愛知学院大学健康栄養学科に進学しました。糖尿病の祖父を食事面でサポートしていた祖母を見ていたことも、この仕事に興味をもったきっかけです」

大学時代について教えてください。

「ビタミンやミネラルなどの栄養素がどのように分解され、どういう経路で身体に吸収されていくか、身体にどう働くかを学びました。塩分やタンパク質の量など、制限があるなかで献立を考え、実際に調理をする実習も印象に残っています。大学で給食を振る舞う期間があり、他学部の人たちに学食のように提供したことも楽しかったです。現場実習は社員食堂や病院などに行きました。社員食堂では大量調理を経験し、病院では医師と一緒に患者さんの献立作成や栄養相談を経験しました」

—仕事について

「地元で働きたいということと、健康な人が病気になるないようにアプローチしたいという思いがあり、杏林堂薬局に就職しました。スポーツ栄養についての指導など、幅広い



栄養士業務に携われることも入社を決めた理由のひとつです」

仕事内容を簡単に教えてください。

「お客様の健康を支える仕事です。中でもドラッグストアの管理栄養士は、病院の先生には聞きづらいような些細なことや、栄養・食事のことを気軽に相談できる存在だと思います。私が担当しているのは、医薬品と健康食品。商品の発注や売場づくり、接客をおこなっています。相談を受けたお客様への、効果的な栄養素の取り方や食生活のアドバイスも私の仕事。ほかにもスポーツ栄養に関する仕事として、食事記録をもとにアドバイスをしたり、オンラインセミナーで栄養指導をすることもあります」

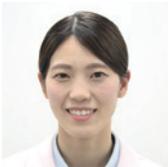
—やりがい

「たとえば部活で増量をしたという目標がある選手の場合、食事指導をして結果が出たときにやりがいを感じます。選手もうれしいと思いますし、私も協力できてよかったです。この気持ちになります。あとは、相談を受けたお客様から「相談してよかった。ありがと」と感謝の言葉をいただいたときもうれしいです」

—メッセージ

「管理栄養士養成課程のある大学で学び、国家試験に合格することが一般的です。まずは、栄養素に関する専門知識や調理技術を身につけるための勉強を頑張ってください。対面して指導をすることが多いので、コミュニケーション力も身につけておく必要があります。高校時代は、部活を一生懸命頑張ってください。仲間と同じ目標に向かって取り組む機会は、大人になると少なくなります。学生時代の貴重な経験は、本当に大事だったと今になって思いますよ!」

ありがとうございました。



18歳 部活に熱中した高校時代。管理栄養士をめざして愛知学院大学へ。

22歳 国家試験に合格し、管理栄養士資格を取得。卒業後、杏林堂薬局に就職。

27歳 お客様の健康のため、食事指導など日々の仕事に取り組む。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ!
<http://amb100search.com>



「一つひとつの要素を明確にしていく。求められていること、実現する方法、」



岡崎久弥さん(1995年生まれ)

静岡東高校 出身
静岡大学 理学部大学院修了

鈴与システムテクノロジー株式会社

静岡市清水区中之郷 2-1-5 鈴与情報センタービル
<https://www.sst-web.com/>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学→システム開発をおこなう企業に就職→プログラミングの基礎、IT業界について学ぶ→クラウドエンジニア

— 学生時代

「卓球部に所属していて、卓球に打ち込んだ毎日が思い出に残っています。インターハイでは、ダブルスで県ベスト16までいくことができました。当時の仲間とは今でも交流がありますよ。小学生のときから数学に興味があり、大学では数学の研究をしたいと思いますので、静岡大学理学部数学科に進学しました」

大学時代について教えてください。

「主に学んだのは代数幾何という分野。図形を数学的な式でどう表すか、どのような関係があるのかを研究しました。研究では、現在起きていることを客観的かつ論理的に捉え、その事実を積み重ねて結論を出す必要があります。物事を自分の頭で理解してロジカルに考えていく思考は、現在IT業界で働くうえでも役立つと思います。自分のスキルをいかして最先端の分野で働きたいという思いがあり、物流システムなどの情報システム開発をおこなう鈴与システムテクノロジーに就職しました」

— 仕事について

「最初の研修では、プログラミングコードを書いたり、既存システムに欲しい機能を追加したり、プログラミングの基礎を学びました。現在は、ITの力で業務を効率化するために、パブリッククラウドのシステムを設計・構築してお客様にITサービスを提供しています。システムが止まることなく、現場が業務を続けられる環境を整える仕事です」



仕事の流れを教えてください。

「まず、『手作業の業務をシステムに落とし込んで自動化したい』など、お客様の業務課題をもとにシステム開発の目的を明確にする要件定義をおこないます。求める機能が明確になったら、それを分解・細分化して、どのように実現していくかを考えながらシステムの土台を設計していきます」

大切にしていることは？

「お客様に何を求められているのか、どうすれば実現できるのか、一つひとつの要素を明確にしていくことです。それを最短ルートで実現させるためにコミュニケーションを一番大切にしています。毎日5、6時間ほど、お客様やプログラマーと打ち合わせをしています」

— やりがい

「やりがいを感じるのには、相手から求められていることに対し、それ以上の付加価値を付けてサービスを提供できたときです。私はクラウドの導入やセキュリティ設計、技術検証を主に任されており、鈴与グループの最先端を走っているという誇りも感じています」

— メッセージ

「取得した資格よりも何を経験してきたのが大切だと思います。エンジニアにもヒューマンスキルが求められます。目の前の課題に対してどうアプローチしていくか、物事に対する向き合い方が重要な仕事です。私が高校時代にやっておいたよかったのは、物事に疑問をもつこと。『11は本当に2なのか？』など、いろいろな視野で疑問をもってみてください。そして、『それを証明するにはどうしたらいいのか？』を考える。その思考力が社会に出たときに役立つはずですよ」



目録

- 18歳 小学生のときから数学に興味があり、静岡大学理学部数学科に進学。
- 24歳 最先端の分野で活躍したいと思い、鈴与システムテクノロジーに就職。
- 28歳 お客様の目的を明確にし、ITの力で業務の効率化を実現させる。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！
<http://amb100search.com>



安心して安全なマグロを、
おいしく食べてもらうために。



山崎優也さん(2003年生まれ)
学校法人倉橋学園キラリ高校 出身

極洋水産株式会社

焼津市飯淵1441-1
<http://www.kyokuyo-suisan.co.jp/>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→漁撈事業、マグロ加工事業などでおこなう企業に就職→製造課に配属

——学生時代

「小さいころから空手を続けていて、高校生のときに全国大会で2位になったことが思い出に残っています。空手を通して学んだのは、忍耐力。もし負けてしまったとしても人のせいにはせず、自分の弱さが原因だと思おうようになりました。まわりにも怒りをぶつける前に、『自分自身と向き合う』という教えは、社会に出た今も大切にしています」

——仕事について

「高校卒業後、海外まき網船4隻による漁撈(ぎよろう)事業、マグロ加工事業などをおこなう極洋水産に就職しました。私は大井川工場製造課で働いています。入社後の3ヶ月は研修期間。マグロの皮を大きなナタで削ぐ『磨き』という作業を最初に教わりました。最初は力任せで作業してすぐに疲れてしまいました。が、経験を重ねてコツを体で覚えていき、力を入れなくてもスツと削げるようになりました」

——最初に先輩から教わったことは?

「給料をいただいている以上、プロとして仕事に取り組み意識です。ちゃんとした製品に加工できるよう、そのプロ意識は常に忘れないようにしています。新人のころは、『失敗してもいいけど、挑戦する姿勢を忘れないように』とよく言われました。失敗から何かを学んで自身を成長させる大切さも教わりました」

——仕事内容を簡単に教えてください。

「安心・安全なマグロなどの製品をみなさんに提供し、おいしく食べて

——メッセージ

「必須となる資格はありませんが、フォークリフト免許をもっていると、任せてもらえる仕事の幅が広がります。魚がけつこう重たいので、体力はあつたほうがいいですね。パレットから取り出すときに力も必要です。私は仕事とプライベートの切り替えを大切にしています。仕事は真剣にやって終わったら存分に遊ぶようにしています。高校生のみなさんも、授業は真剣に受けて休み時間は友達と思いつき遊びなど、オンオフのメリハリを大切にしてください!」



「製品も大事ですが、まずは自分がケガをしないこと。手袋をつけて作業をするのですが、マグロの油で手がすべらないように魚の持ち方などを工夫し、安全を確保することが大切です」

——心がけていることは?

「弊社の製品は、全国の大手回転寿司店や量販店などに並びます。多くの方に食べていただけることに、誇りとやりがいを感じます。回転寿司店に行った際に、『お客様が『おいしい』』と言って魚を食べている様子を見ると、『もしかしら自分加工した魚かも』と、うれしい気持ちになります」

——やりがい

「子どものころから続けてきた空手で、全国大会2位という結果を残す。極洋水産に就職。研修を通して、水産加工の基礎を学ぶ。多くのお客様に安全でおいしい食品を食べてもらえるよう、日々の仕事に取り組む。」



17歳
↓
18歳
↓
19歳

子どものころから続けてきた空手で、全国大会2位という結果を残す。

極洋水産に就職。研修を通して、水産加工の基礎を学ぶ。

多くのお客様に安全でおいしい食品を食べてもらえるよう、日々の仕事に取り組む。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>

